

第4学年竹組 体育科学習指導案

指導者 学級担任 竹本 尚平 (T1)
 養護助教諭 田邊 結 (T2)

- 1 日時 令和5年9月26日(火) 5校時(13:50~14:35)
 2 場所 自教室
 3 単元名 育ちゆくわたしたちの体 ~高小未来へ「体すくすく成長作戦」~(保健領域 体の発育・発達)
 4 授業づくりに関する考え方

(1) 教材の特性と児童の実態

子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> 年齢に伴って身長や体重は変化することや健康の保持増進には食事、運動、睡眠が大切であることは理解している。しかし、思春期には体の働きや心にも変化が起こることや、食事、運動、睡眠が体の発育・発達にどのような効果をもたらしているのかは理解していない。(知識及び技能) 授業中は、どの課題にも真剣に取り組むことができる。しかし、根拠に基づいて考えを伝えることができない子どももおり、学びの深まりに個人差が見られる。(思考力、判断力、表現力等) 健康で丈夫な体になりたいという思いをもっている子どもは多いが、給食での好き嫌いや夜更かしなど食事や睡眠において生活習慣の乱れが見られ、自己の健康に関する意識の低さを感じられる。(学びに向かう力、人間性等) 	教材の特性	<p>本単元は、体の発育・発達についての一般的な現象や思春期の体の変化を理解することを通して、自己の心と体の成長に気づき、体をよりよく成長させるためにはどうすればよいかを考え、実践しようとする態度を養うことをねらいとしている。体の発育・発達については、体の変化に関わる学習内容であり、過去と現在の自分の体の成長を比べさせたり、養護教諭と連携したりすることで理解を深めることができる。そして、自分の生活を振り返り、よりよい体の発育・発達に関する自らの課題を見付け、解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現できるようにすることを目指した学習内容でもある。</p> <p>また、対話への必要感をもたせ、仲間と関わり合ったり、自分ごととして学習内容を捉えさせたりすることで、「体をよりよく成長させたい」という思いをもち、学びを日常生活に生かそうとする態度の育成にもつながると考える。</p>
--------	--	-------	---

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て			イ 評価規準				
「教材とつながる」		「仲間とつながる」	「自分とつながる」		知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 学習意欲を向上させるために、子どもの実態に応じた単元の導入を工夫する。		③ 対話への必要感をもたせるために、課題設定や問いを工夫する。	④ 学びの成果を実感し、次の学びにつなぐことができるようにするために、振り返り・自己評価を工夫する。		ア 体の発育・発達について理解し、発言したり書いたりしている。 イ 体がよりよく発育・発達するための生活の仕方について理解している。	ア 体の発育・発達に関わる事象から課題を見付けている。 イ 体のよりよい発育・発達を目指す視点から、適切な方法を考え、それを伝えている。	ア 体の発育・発達について、関心をもち、自己の健康の保持増進に進んで取り組もうとしている。
② 子どもが正しい知識を持つことができるようにするために、養護教諭等との連携を図り、授業をコーディネートする。			⑤ 学びを今後に生かすために、単元終末の活動を工夫する。				
ウ 単元における指導と評価の計画							
時	1 (本時)	2	3	4	5		
学習の流れ	わたしたちの体は、どのように成長しているのだろうか。	思春期には、わたしたちの体にどんな変化が起こるのだろうか。	思春期には、体の働きや心にどんな変化が起こるのだろうか。	体がよりよく成長するためには、どんな生活の仕方がよいのだろうか。	「高小未来へ～体すくすく成長作戦～」を考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> 体の成長クイズを行う。【視点①】 身長の伸びを確認、比較し、気付いたことを共有する。【視点③】 養護教諭の話聞く。【視点②】 学習のまとめを行う。【視点④】 	<ul style="list-style-type: none"> 「声当てクイズ」や「シルエットクイズ」を行う。【視点①】 思春期に現れる男女の体つきの違いや変化について知る。【視点②】 学習のまとめを行う。【視点④】 	<ul style="list-style-type: none"> 思春期に現れる体の働きや心の変化について知る。【視点②】 学習のまとめ、振り返りを行う。【視点④】 	<ul style="list-style-type: none"> 体をよりよく成長させるための生活の仕方を知る。【視点②】 学習のまとめを行う。【視点④】 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活に関するアンケート結果から本校の課題を見出す。【視点③】 はまっ子のよりよい成長のために、自分たちにできることを考える。【視点⑤】 学習のまとめ、振り返りを行う。【視点④】 		
主な評価	知	ア (発言、学習カード)	ア (発言、学習カード)	ア (発言、学習カード)	イ (発言、学習カード)	イ (発言、学習カード)	
	思				ア (発言、学習カード)	イ (発言、学習カード)	
	態			ア (発言、学習カード)		ア (発言、学習カード)	

(2) 単元構想

ア 単元目標

- 年齢に伴う体の変化と個人差、思春期の体の変化、体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようにする。(知識)
- 体がよりよく発育・発達するために自らの課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現できるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- 体の発育・発達について関心をもち、健康の大切さに気付くとともに、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

	中学年 〈体の発育・発達〉	高学年 〈心の健康〉
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 体の発育・発達について理解できる。 思春期の体や心の変化について理解できる。 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解できる。 不安や悩みへの簡単な対処をすることができる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 体の発育・発達に関わる事象から課題を見付け、体のよりよい発育・発達を目指す視点から、適切な方法を考え、それを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の健康に関わる事象から課題を見付け、心をよりよく発達させたり不安や悩みに対処したりする視点から、解決の方法を考え、適切なものを選び、それらを説明することができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 体の発育・発達について関心をもち、その大切さに気付くとともに、自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心の発達や不安や悩みへの対処の方法などに関心をもち、学習活動に積極的に取り組んだり、学んだことを日常生活に生かしたりすることができる。

ウ 本単元を通して育てたい児童像(ゴールイメージ)及び教師の願い

過去・現在・未来の自分とつながり、心も体もよりよく成長していこうとする愛顔あふれる子ども
 体の発育・発達に関する自らの健康課題を見付け、自分に合った適切な方法を考えることを通して、自己の成長に希望をもち、「体をよりよく成長させたい」という思いをもたせたい。

5 本時の指導（1/5）

(1) 目標

- 身長伸び方を調べ友達と比較することを通して、年齢に伴って体は変化し、体の発育・発達には、個人差があることを理解できるようにする。(知識)

(2) 準備物

- 教師 大型テレビ、赤ちゃんの服と靴、新生児人形、掲示物、健康手帳、教師用タブレット端末
- 児童 タブレット端末、筆記用具

(3) 展開

学習活動	○ 教師の働き掛け		<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な児童・意欲的でない児童への支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準(方法)【観点】 <input type="checkbox"/> 赤ちゃんの服や靴などを提示し、自分たちが成長してきたことを実感させる。 <input type="checkbox"/> 1～6年生の間で最も身長が伸びる時期について問い掛け、身長の伸びへの意欲付けをする。 <input type="checkbox"/> 最も身長が伸びた時期を問い掛け、友達と身長を比べることへの意欲を高める。 <input type="checkbox"/> OneDrive で共有したシートに1～4年生の身長を入力させ、グループ内でお互いの身長の伸びが比較しやすいようにする。 <input type="checkbox"/> グラフからそれぞれの身長の伸び方の違いを考えさせる。 <input checked="" type="checkbox"/> 最も身長が伸びた時期や身長の変化量に着目させる。 <input type="checkbox"/> 児童の気付きに触れながら、説明を行う。 <input type="checkbox"/> 体の発育には男女差や個人差があることや、これからも身長が伸びることを伝え、自己の成長を肯定的に捉えさせる。 <input type="checkbox"/> 未来の自分を予想させることで、自己の成長への希望をもたせる。 <input checked="" type="checkbox"/> 体の発育・発達について理解し、発言したり書いたりしている。(発言、学習カード)【知】
	T1 学級担任	T2 養護教諭	
1 体の成長クイズを行う。	○ 体の発育・発達に関するクイズを提示する。	○ 赤ちゃんの靴や服、新生児人形を提示し、補足説明を行う。	
2 本時の課題を確認する。	わたしたちの体は、どのように成長しているのだろうか。		
3 1～4年生までの身長の伸び方をグラフに表し、体の成長について調べる。 (1) 身長調べをする。 (2) グループでそれぞれの身長の伸びを比較し、気付いたことを共有する。	<input type="checkbox"/> 健康手帳をもとに、学習カードに1～4年生の身長を入力させる。 <input type="checkbox"/> 身長調べの結果から、体は年齢とともに成長していることを確認させる。 <input type="checkbox"/> 身長伸びを比較させ、気付いたことを学習カードに記入させる。 <input type="checkbox"/> グラフから気付いたことを発表させ、身長伸び方の違いを全体で確認する。	<input type="checkbox"/> 数人の6年生の身長の伸びのグラフを提示し、身長が伸びる時期や量は人によって違うことの根拠を示す。 <input type="checkbox"/> 体の成長の仕方には、それぞれ個人差があり、成長の速度や時期が異なることを説明する。	
4 養護教諭の話聞く。	わたしたちの体は、年齢とともに成長し、発育の時期や変化する量には個人差がある。		
5 本時のまとめを行い、次時の活動の見通しをもつ。	<input type="checkbox"/> 10年後の成長した自分を予想させる。 <input type="checkbox"/> 成長するのは身長だけか問い掛け、次時への意欲につなげる。	<input type="checkbox"/> 児童の予想に対し、肯定的な声掛けを行う。	

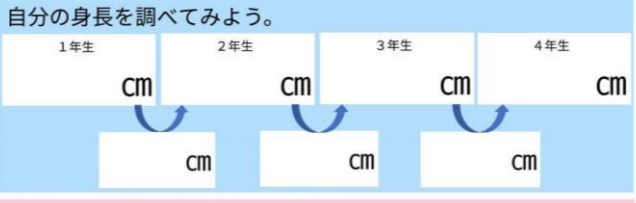
(4) 本時の研究の視点

- OneDrive を活用し、互いの身長の変化を共有しながら身長の伸びを比較させたことは、児童が対話への必要感を感じながら体の発育について考えることに有効であったか。【仲間とつながる】
- 10年後の成長した自分を予想させたことは、自己の成長への希望をもち、本時の学びを次時へつなげることに効果的であったか。【自分とつながる】

(5) 学習カード

1 時間目 (めあて) わたしたちの体は、どのように成長しているのだろうか。

自分の身長を調べてみよう。



他の人と身長を比べて、気付いたことを書こう。

1 時間目 (めあて) わたしたちの体は、どのように成長しているのだろうか。

10年後の成長した自分

身長はどれくらいになっているだろうか？

ほかにはどこで成長しているかな？

今日の授業で学んだことやこれから成長していく自分に向けての言葉を書こう。

6 実感を伴った理解をさせるための養護教諭との連携の在り方

養護教諭の専門性とは、本校の健康・安全課題を把握していることであり、その健康課題を効果的に指導に生かすことである。本単元で養護教諭が関わる場面は次のとおりである。

- 体の発育・発達、よりよい体の成長のための生活の仕方について
体の成長や変化、運動、食事、睡眠が体にもたらす効果について、資料やデータなどの根拠を基に説明することで、児童が正しい知識を持つことができるようにする。
- 本校の健康課題について
全校児童を対象に行う「生活アンケート」の結果から、本校の健康課題を伝えることで、「高小未来へ～体すくすく成長作戦～」の活動につなげる。

○ 養護教諭の保健学習に関する専門性とは…

- ① 日々の保健活動により、学校の健康(安全)課題を把握し、その分析を指導計画に生かすことができる。
- ② 学級担任とともに単元指導計画を立案する際、知識・理解に関する事項を的確に捉え、それに基づいた効果的な資料や学校の実態に合った資料を提案することができる。
- ③ 健康や安全に関する学習内容(心や体の変化の仕組み等)について、保健活動に特化した視点と過去の指導例から発達段階に応じた簡潔な説明を行うことができる。
- ④ 単元の前・中・後で児童の見届けを行うことができる。